



医学部総合薬学科（現薬学部）出身

八幡 みどり さん

**広島県警察本部
刑事部科学捜査研究所
所長**

やはた・みどり／広島大学医学部総合薬学科を1985年に卒業後、広島県警察本部刑事部科学捜査研究所へ入職。化学研究室の研究員として勤務し、2022年3月より現職。

薬物や毒物を鑑定し 化学の力で真実を証明

山口県から広島大学医学部総合薬学科（現薬学部）に進学しました。卒業研究でお世話になった研究室の先生から広島県警の科学捜査研究所に欠員募集が出たことを聞き、幸運にも入職できました。

科捜研には、法医、化学、物理、心理、文書・画像という研究室があり、それぞれ専門知識を持った研究員が各種鑑定を行っています。私は化学研究室で覚醒剤や大麻などの乱用薬物や毒物の鑑定に従事しました。尿を分析して被験者の覚醒剤使用を証明したり、押収した粉末を分析して禁止薬物であることを証明したりと、証拠品や分析方法はさまざま。学生時代に薬物・毒物の知識や分析の基礎を学んでいたことで、難しい鑑定にも取り組みました。

私たちが出す鑑定結果は事件当事者の人生を変えうることから、中立な立場で真実を明らかにすべく、常に緊張感を持ってあたることを心がけていました。

初の女性所長として 男女問わず働きやすい場に

2022年3月からは広島県初の女性所長として、科捜研全体の業務を統括しています。入職した年、全国の科捜研で女性の採用は私だけでしたが、同年に男女雇用機会均等法が制定されたことで女性が多く採用されるように。翌年から全国の科捜研を対象とする研修に参加できました。また、広島県科捜研で初めて育休を取得したり、先輩や同僚、家族に協力してもらったりと、制度や周囲の人々のおかげでここまで働き続けられました。この経験を生かし、科捜研が男女を問わず働きやすい職

場になるよう、これからも努めていきます。

犯罪を取り巻く環境の変化に対応するため、鑑定に最新の知見や技術を導入できるよう、ネットワークを広げるのも所長の仕事の一つ。広島大学に鑑定や研究の協力を依頼することもあれば、内地留学として半年間研究員を大学に派遣することもあります。科捜研の発展のため、広島大学とはこれからも深いつながりを築いていきたいです。

広大のここがええね！

かつて教養科目を学んだ東千田キャンパス。法学部が東広島キャンパスから移転することで、東千田キャンパスが再びにぎわいを取り戻すことをうれしく思います。